



2022年12月8日発行

# 奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.9

## お疲れ様会（振り返り） 2022年11月30日（水）

企画参加者、ボランティア、実行委員が  
一堂に介して、振り返りの会を開催しました！

奈良町見知ルが終わり、朝夕  
の寒さが身にしみ始めた十一月  
末、夜の奈良町にぎわいの家に  
企画参加者、ボランティアスタッ  
フ、実行委員が集まり、今年の  
奈良町見知ルを振り返るお疲れ  
様会を開催しました。今号では  
その内容をレポートします。

\* \* \*

お疲れ様会は、前半に倉橋実  
行委員長より挨拶と報告、それ  
を踏まえて後半はグループに分  
かれての振り返りという二部構  
成で行われました。

まず、倉橋実行委員長から、  
昨年の全国町並みゼミ奈良大会  
で産声をあげた奈良町見知ルを  
今年から実行委員会形式に移し  
て開催できしたこと、そして、大  
きな事故なく無事に開催期間を  
終えることができたことへの感  
謝の気持ちが語られました。

続いて、今年の奈良町見知ル  
では、昨年の倍近くの参加者・  
来場者が得られたことが報告さ  
れました。特別イベント参加者  
へのアンケートや一部の特別公  
開スポットに設置された「綴つ  
て見知ル」の内容から、多くの  
参加者・来場者の皆様が満足し  
てくださっていたことがわかり  
ました。（本報告書第3部参照）。

また、今年度初めての試みと  
して、奈良町物語館にスタッ  
フ常駐の「インフォメーション

その成果についても報告されま  
した。

まず、開催初日の「オープニ  
ングトーク」です。奈良町らし  
い「ちょっとといいところ」をテー  
マとして、奈良町見知ルの意義  
や魅力を探り、参加者の皆様と  
共有することができました。

十一の特別公開、十一の特別  
イベントに加え、実行委員会企  
画として「ならまち町名由来板  
のフォトラリー」（企画…奈良  
町座）、「#写して見知ル！みん  
なでつくろう奈良町フォトマッ  
プ」（企画…奈良町「[K]プロジェクト  
& 学生団体「あそぶなら」）  
も行いました。



「ブース」を設置し、多くの参加者が来場者にご利用いただきました。やはり直接のコミュニケーションを通じて奈良町見知ルをご案内する事が、参加者・来場者の皆様の満足につながっていく手応えも得られました。

天理大学杉山研究室の協力もあり、開催までのプロセスや期間中の様子を「ニュースレター」「フォトブック」等で関係者や「共有し、記録として残すこと」でできました。学生視点を生かすため、学生団体「あそぶなら」に役員に加わってもらつたこと、ボランティアスタッフを募集し、実際に四人の方に活動していたいたこと、参加者対象のアンケート実施、すべて今年度初の取り組みでした。

開催期間中の前後には、「企画参加者対象説明会・交流会」「ボランティア説明会」「企画参加者ボランティアスタッフ対象お疲れ様会」も開催しました。この奈良町見知ルにかかる私たち自身が「まちの魅力」を再発見し、この奈良町を構成する各エリアが相互に「まちの個性」を理解し合い、そして、そのような仲間やつながりを広げていくことを指して、交流を図る機会とすることができました。

以上の倉橋実行委員長からの報告を受け、後半では企画参加者、ボランティア、実行委員が5つのグループに分かれ、交流を深めながら、今年の奈良町見知ルを振り返りました。

各グループでは、それぞれの特別公開スポットや特別イベントの様子が紹介され、その中で感じたこと、考えたことが交流され、今年の成果や今後の課題、可能性が語り合われました。

最後に、今回の振り返りの感想やこれから展望を語るリポートも行いました。

この日のお疲れ様会を通じて、奈良町の「ちょっといいところ」が私たちを出会わせ、互いが結ばれ、さらにゆるやかで強いネットワークになつていくことを直感しました。そのようなつながりの大目にしながら、この奈良町見知ルを長く続けていくこそが、地域に根づき、愛されるイベントにしていけたらと思います。



## 奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.9

2022年12月8日発行

編集責任者：杉山 晋平（天理大学）

写真撮影：木村 愛美（天理大学 学生）

杉山 晋平

連絡先：shimpei@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2022